

《在鳴門》2011年10月 第73期

1、市役所の雰囲気

市の規模によって、市役所の状況は違います。多くの市役所のように、鳴門市役所は素朴で、郵便局や、病院や、銀行など公共サービス機関と同じ、窓口は市民の方々に開放され、窓口への出入りは制限がなく、自由です。名と中身が一致した、真の役所だと思います——役所というのは、市民のために務めるという場所です。だから、様々な部署で市民にサービスを提供します。市民たちは、自由に行きたい部署を訪れます。昼休みの間、保険会社、金融機関職員などは、商工観光課を訪れ、課内をまわり、チラシを配布します。ところが、課員たちは少しも気分を悪くしたようには見えず、皆、慣れて、あるいは当たり前と思っているのだと思います。市役所本庁には、中央は廊下、両側はオーフェイス、多くの課が一緒に仕事をし、ほかの課とロッカーで隔て、互いの勤務状態は一目瞭然です。商工観光課も例外ではなく、同じ経済局所属の農林水産課と一室で仕事をします。局長の机が一番奥のところにあり、全局の職員の仕事の様子が見えます。課長の机は局長の前に配置され、課員らの正面に面します。副課長は課長の前に配置され、部下の職員たちと正面を面します。—このように、職位の順番に従って日常仕事の監督を行っています。

2、青島市行政サービスホール



(青島市行政サービスホールの内部写真)



青島市役所は、行政サービスセンターを設置しています。いわば、市民に便利な行政サービスを提供する窓口です。市役所の各部門には、公共管理サービスの権力を持つ部門が集中しています。銀行のような長い窓口があり、外部と内部の空間を分離させ、市民は窓口を通じて用件を解決します。しかし、職員の内部区域には入れません。行政サービスセンターの他、市役所の各部門には各自のオフィスがあり、そこは、市民に対して開放されていません。内部オフィスだけです。市民が訪れる場合には、役所の正門の守衛室から関係部門や関係者に電話して、相手が了解をした上で、訪問者登録をして、通行証をもらい、内部に入ることができます。

3、中国の基層役場——郷政府



（青島の平度市大澤山鎮人民政府の写真）

中国の郷は、日本での人口5万の市に相当する規模です。より大きい郷とより小さい郷もあります。しかし、郷の役場は市役所よりもはるかに小さいです。中国の法律により、郷の役場には事務室が一つと三つのサービス部門だけがあります。——（党政事務室、人口生育課、農業課、経済課），職員は約30名程度で多くの郷の人口構成は農民が90%を占めます。そして、多くの役場は農民たちのためにサービスを提供します。ところが、中国の江蘇省、浙江省、福建省、広東省など東南沿岸部地域の民間企業が発達するにした

がって、その郷の役場の規模は拡大され、職務も多様化しています。それは、都市化されているからだと思います。

一方、内陸の広い地方には、郷は依然農村であり、財政収入が少ない、交通等インフラが未整備、教育水準が低い、地場産業が少ない、農民の収入が低い等があり、生活が苦しいです。近年以来、沢山の成年農民たちは都会へ出稼ぎに行きます。そのため農村には老人と子供しかおらず、農業の労働力は不足します。そうすると、農産物の産量が減り、価額の上昇が続きます。その対策として、国は農民に対して農業土地手当てを配ったり、各税金賦課を軽減したりしていますが、農民の収入はやはり少なく、都会人を羨みます。それに対して、日本の農民は都会人を羨みません。逆に、都会の人は農村の暮らしにあこがれを持っています。とは言うものの、農村地域は発展しない限り、農民の生活は苦しいです。そういった国々はまだまだ途上国だと思います。

4、建築工人



鳴門市内の建設会社は道路工事中、常に建設会社員の方は小赤旗を振り、交通を指揮しながら通行者たちに会釈します。毎回、感動し、自転車に乗る僕も、建設会社員に会釈をします。——これは、やさしい社会なんだと思います。青島市内では、多くの建設会社の労働者たちは農民です。道路、水道、電気、ガスなど工事の場合は、暫く歩道を占用します。しかし、通行者に会釈するどころか、交通を指揮する人すらいません。

その現実には、深い問題根源があるからだと思います。多くの建設会社員は都会から遠くの農村出身であり、教育程度は低く、出稼ぎの収入が低いです。また、仕事はきついし、作業服は泥だらけで都会人に嫌われます。しかし、都会の発展には建設労働者は欠かせません。農民労働者はもはや社会では無視できない階層になっています。彼等の生活環境の改善は重要な社会問題です。生活環境、労働環境、福祉保障などの課題を解決しない限り、都会人との生活格差は大きいばかりで、農民労働者は都会人との間にある溝は埋まりません。工事中において通行者の市民たちに会釈をしないことは、言うまでもないです。

5、震災後の思い

10月6日、NHKテレビニュースにより、野田首相はこういう決定を発表しました。「東京都内三つの区には、16個所の公務員宿舎の建設の凍結と売却の方針」。また千葉県朝霞区では、一箇所建設中の公務員宿舎は5年間凍結するようです。原因は、衆議院と世論の批判によって、「今、多くの被災者はまだ家がない、復興のため税率を上げて、なぜ公務員の宿舎を建てるのか」との意見が強いからです。日本政府の財政圧力はいかにもきびしいと慨嘆しました。

東日本大震災後、額は発表されていませんが市役所の公務員たちは義援金を寄付しました。市は通知を公布し、義援金の額は、個人の判断に任せました。

2008年、中国四川省大震災後、青島市役所は義援金を皆寄付しました。市は義援金の通知中に具体的な金額として、参考標準を示しました。その後、各部門内部に全員の寄付額と総額を発表しました。それは、全国の義援金規模が巨大な額となり、被災地の復興に重要な役割を担いました。

しかし、四川大震災のため、政府の建設中の工事、または、公務員住宅などを凍結ということは聞いたことがありません。青島市の公務員住宅は近年以来、建設が続いています。なお、それは公務員宿舎ではなくて、公務員が買えるマンションです。90年代以前の福祉住宅制度よりも市場化の大きな一歩を跨ったが、公務員住宅福祉の跡まだ残っています。



*图为青島市内ある公務員住宅マンション

6、日本住宅の夢



テレビや、現実で、日本民家の一戸建てを見れば、緑の木、綺麗な庭、立派な二階ビル、格別な実用性が高い室内空間、思わずこの家を持てば、一生何も要らないと思うほどです。かつて、ある世論調査では、日本のサラリーマンの夢は、やはり一戸建ての自宅でした。日本や多くの国には、土地は私有財産だから、自宅は自家の土地に建て、いつか倒すという心配がなく、親から子孫に継承でき、家の使用年限がくれば、倒して新居を建てられます。家は私有財産の真の「不動産」といえます。

もし土地の使用権だけで、所有権がない場合、国と地方政府が勝手に徴用でき、いつかは、倒されることでしょう。そうすれば、家は「不動産」とはいえません。

中国では、自家の宅地の使用権しか持ってません。宅地の所有権は村が持ちます。宅地に自宅を建てるのは問題ない、ただ、国と地方政府が必要な場合、やはり徴用する。だから、自宅を建てる時、事前によく考えなければいけません。

農民は辛うじて自宅を建てても、突然、国と地方の道路建設や、工業開発で徴用されてしまいます。これには地元住民の苦情も強いです。土地徴用一もはや深刻な社会問題です。

7、ビニール袋の生ビール——青島の庶民文化

毎年の夏、青島の多くの街区中に、住民はビニール袋に生ビールを持ち帰ります。外国人だけではなく、はじめて青島にきた外地の観光客もびっくりし「生ビールは、ジョッキで飲むものじゃないか？なぜビニール袋の中に入れるのか？」それは、本当に面白い風景です。先日、日本のテレビ番組がそのことを報道しました。中国語講座の受講者も質問してきました。

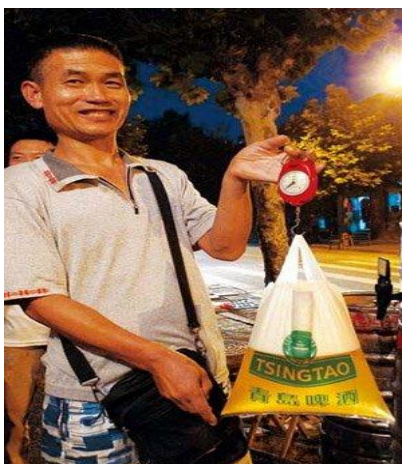
青島市には、いつから、誰によって、ビニール袋で生ビールを持ち帰りだしたかということははっきり分からないが、生ビールを持ち帰るのには、もちろん理屈があります。

一、便利。普段、居酒屋で生ビールを飲むが、家で飲みたいとき、スーパーやコンビニでしようがなく瓶と缶ビールを買います。ところが、それは新鮮な生ビールではないです。家の付近の小売店や居酒屋で、生ビールを買って、持ち帰るのは気持ちいいことです。青島市内のいたるところ、ほとんどの小売店や居酒屋は、夏に、生ビールを販売します。店頭で、1-2個、大ビールバケツを置いておき、なくなれば青島ビール会社が素早く補充します。家が近くだから、すぐ帰り、コップに入れて飲みます。青島市民は絶対に車で遠くから生ビールを買うことをせず、ビンなど容器を使いません。それは重くて、面倒くさいからです。

二、美味しい。ビンや缶などビールは再加工のビールだから、味は生ビールの方がより美味しいです。生ビールは当日青島ビール会社の工場が生産したばかりのもので、翌日まではもちません。夏、青島ビール会社の貨車は、毎日、青島市内のいたる町を走って、新鮮な生ビールを各販売場所に輸送します。販売量は非常に多いです。

三、安い。ビニール袋では、ビンと缶よりも、会社の生産コストは減ります。つまり、値段はより安いです。美味しいし、安いから市民たちには人気が高いです。一個ビンの青島ビールは4元、飲食店の場合6元、ところが、ビニール袋は2元、半額以下です。

暑い夏には、新鮮な冷たい生ビールを飲み、炒めアサリ、焼肉、タコ料理、または、煮る落花生を食べながら、親友と乾杯することは、青島市民にとって最高の一時です。



*店主はお客さんに生ビールを量る



*青島ビール会社の市内輸送貨車